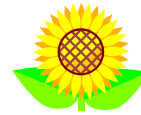


児童生徒支援のための 『ワンポイント・アドバイス』 ～2学期のスタートに向けて～



学級づくり 12 箇月
9 月号
京都府丹後教育局

Tel : 0772-22-2175 Fax : 0772-22-0479
HP : <http://www.kyoto-be.ne.jp/tango-k/>

この便りは、平成 24 年度丹後特別支援教育研究会研究グループⅡの協力を得て作成しております。

☆行事にかかわる支援・保護者との関係づくり☆

1年で最も長く充実した学期、2学期のスタートです。たくさんの行事がある中で大きな取組となるのが体育的行事、文化的行事です。そんな中、例えばスケジュールの変更に上手く対応できない、なかなか振付等が覚えられないといった、集団活動で自分の力を発揮しにくい子どもたちがいます。そんな子どもたちへの支援のヒントをお伝えします。

また、2学期は1学期の子どもたちの実態を踏まえ、個別支援をさらに具体的に進めるため、保護者ととも子どもへの認知、感覚、行動の傾向や特徴について理解を深めることが必要です。そこで、保護者との良好な関係づくりのヒントについてもお伝えします。

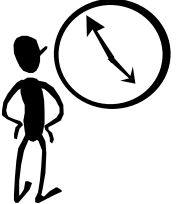
行事にかかわる支援

パターン1 「いつもと違うスケジュール（日程・時間割）に不安を感じてしまう。音などの刺激が負担になる。」

苦手と考えられること：想像すること。状況の変化に対応すること。大きな音に過敏であること。

⇒いつもと違うタイムスケジュールや活動内容が続くため、自分はどうしたらよいのか分からず不安、ピストルやスピーカーからの音が苦手

支援方法：見通しを持たせる。場の雰囲気、イメージをつかませる。安心・納得させる。

- 
- ①取組の前に…個別に取組期間のスケジュールなどを事前に説明する。その際、いつ、どこで、何をするのか（何が聞こえるのか）を、カードや映像等を用い視覚的に示し、理解させる。
 - ・スケジュールに合わせて、絵や写真、文字を用いて作成した活動内容を表したカードを、一つ一つ説明しながら並べていく。変更点があれば、できるだけ早く予告し、心の準備時間をとる。
 - ・作業に参加させる場合は、絵や図、写真、文字を用いて作成した手順カードを見せ、作業方法、作業手順を理解させ、作業の見通しをもたせる。
 - ・ダンス等がある場合は、実際に踊っているところをビデオ撮影し、それを見て予習させる。
 - ②パニックになったとき…スケジュールや作業の変更に従わせようと無理はしない。子どもの気持ちを確認し、落ち着ける場所でクールダウンする。別の課題をさせる等の対応の流れをあらかじめ教員で確認しておく。
 - ③リラックススペースの準備…多くの子どもたちの声や音響に過敏に反応してしまう場合等は、出番以外の時に、校舎内で気持ちをリラックスさせる場所を準備しておく。またそのことを本人に伝えておくことで、安心して参加できることにつながる。

パターン2 「セリフやダンスの動きが覚えられない、覚えてもすぐ忘れてしまう。」

苦手と考えられること：記憶すること。集中すること。⇒覚えたいけどなかなか覚えられない、タイミングが分からない、気がちりやすい

支援方法：取り組むことを明確に示し、理解を深める。

- ①配役や立ち位置を工夫する。…ほかの子どもへのセリフがよく聞こえ、振り付けがよく見える位置にする。
- ②演技やダンスのストーリーの流れを理解させる。…個別指導の時間をつくり、どんな流れなのか、どんな動きなのか見通しをもたせ、本人のペースに合わせ、全体のイメージをつかませる。

保護者との関係づくり

～子ども同士、子どもと保護者、家族同士

・・それぞれをつなぐ視点を大切に～

「困った子どもは困っている子ども」という言葉があります。発達障害のあるなしにかかわらず、気になる様子を見せる子どもたちに対して、適切な支援を行うことが必要です。そのためには、保護者と協力関係を築くことが一番大切です。日頃から保護者と協力関係を築いていくためのポイントを、以下のようにまとめました。

☆関係づくりチェックポイント☆

- 保護者に具体的なエピソードをそえて正しく情報を伝えている。
- 保護者の考えや気持ちを受け止めようとしている。
- 保護者と共に考えようとする姿勢を示している。
- こちらに不備があったときはきちんと謝る姿勢がある。
- 保護者のことを知ることはもちろん、教師である自分自身のことを知ってもらう努力をしている。
- 要支援度の高い低いにかかわらず、学級担任として学級全体を見渡し、子どもたち一人一人を大切にしている。
- 「もう信頼関係があるから大丈夫」と考えず、保護者に継続的に丁寧に情報を伝えている。
- 子どもたちの気になる行動の背景について、保護者に機会を設けて説明している。
- 子どもたちの学習や生活における困難さに対する支援の具体的な手立てについて、保護者に機会を設けて説明している。
- 保護者に学校生活全体の見通しをもってもらうため、他学年の動きを伝えている。

まずは、保護者との信頼関係づくりから！
保護者とのつながり方を、次の項目で振り返ってみてください！

できていれば□にチェックを。

☆保護者と教師で共に伝え合おう☆ 「どんなときでも味方だよ。あなたがすることをいつも見守っているよ。」

保護者は、日々の生活の中で、変化していく我が子の成長に感動や喜びがあり、悩みや不安もあります。なかなか思いどおりにいかない子育てに、時にはいらだち、そして疲れてしまうこともあります。しかし我が子の将来を考え、成長を願い、自分自身を奮い立たせて頑張っています。こういった保護者の思いを十分に受け止めた上で、「支援としてできること」をきちんと説明することが大切です。

○行動面や学習面で気になる子どもをもつ保護者との関係づくり○

<面談のポイント>

- ① 本人の良い点、もっている力について伝える。
- ② 苦手なところを具体的に伝える。
- ③ 困難があることによって、子ども自身がしたくてもできないことを伝える。
- ④ 学校全体で支援していきたいことを具体例をあげて分かりやすく伝える。

支援をすすめていきたい子ども
現在支援している子どもの保護者との面談

○担任している子どものことで保護者から相談・連絡が来たら…○

<面談のポイント>

- ① じっくり話を聞く。(面談時間に余裕をもつ)
- ② 否定しない。(傾聴の姿勢で)
- ③ 感謝の気持ちを示す。(意見を寄せてくれたこと)

◎保護者と顔と顔を合わせて話すことが、何よりも大切です。

☆次回の11月号の内容は「学習にかかわる支援」を予定しています。

